



取扱説明書

オーバーフロー防止弁付き

ローディングバルブ

「オーバーフロー防止弁」

取扱要領

油機工業株式会社

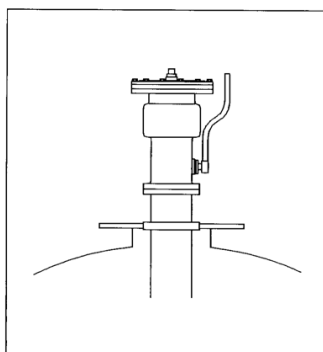
埼玉県志木市下宗岡4丁目21番12号

TEL: 048-473-4782

FAX: 048-476-3727

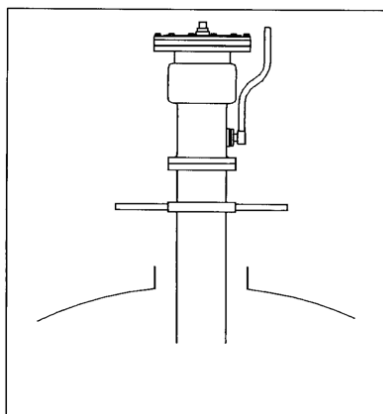
1. 使用上の注意事項

- 1) オーバーフロー防止弁が正しく作動するためには「図 2-1」に示すようにタンクのハッチにドロップパイプのハンドルが接するようにして、バルブを垂直にして使用下さい。センサープローブの位置が正しい位置に来るようにします。

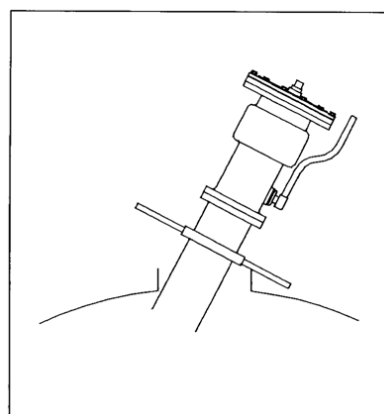


「図 1-1」

注意！：「図 2-2」及び「図 2-3」のように、ドロップパイプを浮かせたり、斜めにして（15度以上）使用するとセンサーの液面検知が遅れオーバーフローの原因となります。



「図 1-2」



「図 1-3」

2. 操作方法

2.1 通常の開閉操作

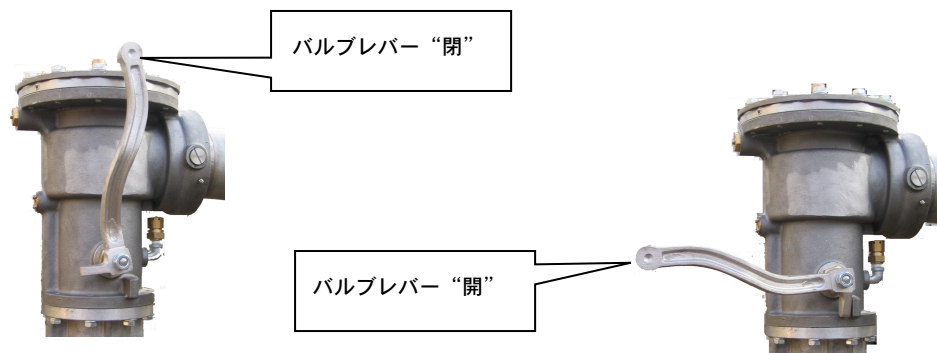
本オーバーフロー防止弁は以下の手順で操作します。

荷役開始時：

- 1) ローディングアームを操作し、格納位置からローリー車マンホールハッチ上に持ってきます。
- 2) ドロップパイプの先端をノズルに差し込み、スライディングドロップパイプを伸ばします（外筒管のフックを外し、外筒管をゆっくり降ろします）。

注意！ ドロップパイプの外筒管はゆっくり降ろして下さい。フックから手を離し外筒管を落下させた場合、タンクの底にダメージを与えるだけでなくドロップパイプの内管に大きな負荷がかかり破損の原因となります。

- 3) ドロップパイプのハンドルがハッチに接するまでバルブを垂直に押し下げます。
- 4) バルブのレバーを操作してバルブを開きます。
- 5) 荷役を始めます。



荷役終了時：

- 1) バルブのレバーを操作し、バルブを閉めます。
- 2) スライディングドロップパイプを格納します（外筒管を引き上げ、フックをかけます）。
- 3) ドロップパイプをハッチから引き上げます。
- 4) ローディングアームを格納します。

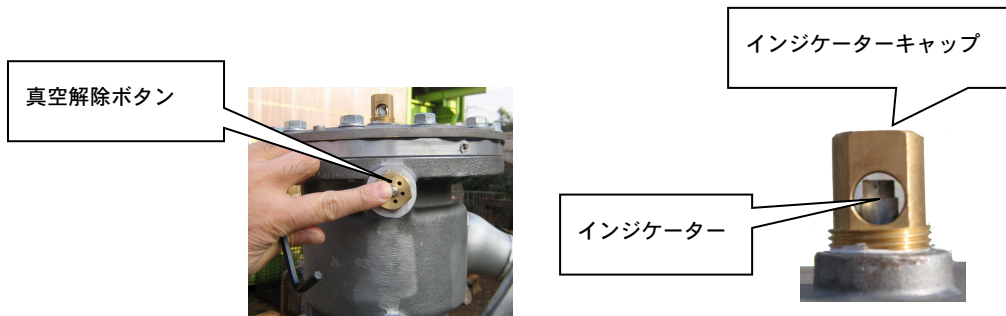
2.2 緊急閉止時

荷役時に液面がドロップパイプ上部のセンサープローブの位置に達したときバルブ閉止機構が作動し、バルブが自動閉止します。

2.3 緊急閉止後の復帰操作

オーバーフロー防止弁が緊急閉止した時には以下の手順でバルブの復帰操作を行います。

- 1) 「真空解除ボタン」を5秒から10秒間押します。
- 2) 「インジケーターキャップ」の内側にインジケーターが出ていることを確認して下さい。
- 3) バルブのレバーを「閉弁位置」に戻します。
- 4) 通常の開閉操作ができます。



注意！

- ・ 緊急閉止が起きた直後にバルブ開弁操作を行った場合、ローディングアーム内の圧力（背圧）のためにバルブが開かないことがあります。その際には無理してレバー操作をしないようにしてください。レバーに連結したスピンドルが変形することがあります。
- ・ バルブを開くには？ レバーを開方向へ軽く、小さく一瞬だけ引いて下さい。ローディングアーム内の圧力が抜けます。引き続き、レバー操作によりバルブ開弁操作を行って下さい。

注意！

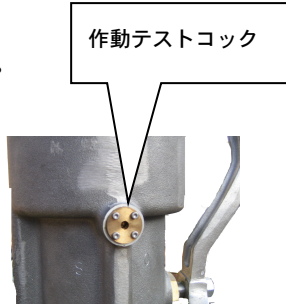
- ・ バルブを閉止位置から開弁位置に。

3. オーバーフロー防止弁の作動テスト

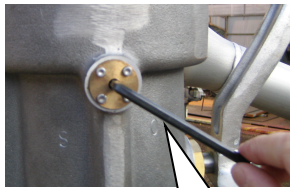
オーバーフロー防止弁の緊急閉止機構は通常使用時には作動することがありません。そのため、万が一の時に緊急閉止機構が確実に作動するためには日頃の作動点検が欠かせません。

以下の手順に従い、定期的に作動確認を行って下さい：

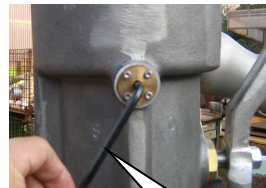
- 1) 「作動テストコック」に六角レンチ(5.0 mm)を差し込みます。
- 2) バルブを開き、通液を開始します。
3. 流れが安定したら六角レンチを時計方向に回します。



作動テストコック



テストコック “開”



テストコック “閉”

4. バルブが閉止すれば正常です。

注記：バルブが閉止しない場合には緊急閉止機構の調整が必要です。

5. 六角レンチを元の位置に戻します（反時計回り回します）。
6. バルブのレバーを閉止位置へ戻します。
7. 以上の操作を数回繰り返し、作動確認を行って下さい。
8. 上記点検を少流量の場合及び、大流量の場合にそれぞれ行って下さい。